

健感発0222第11号

平成28年2月19日

池田 修一 殿

厚生労働省健康局

結核感染症課長



平成27年度厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症及び
予防接種政策推進研究事業)に係る研究課題の評価結果について

平成27年度で終了となります貴台の研究につきまして、先に開催されました新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究中間・事後評価委員会にて審議の結果、「別表 事後評価結果」のとおりとなりましたのでお知らせいたします。

別表 事後評価結果

研究事業名：新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業(評価年度：平成27年度)

研究代表者：池田 修一 殿

研究課題名：子宮頸がんワクチン接種後の神経障害に関する治療法の確立と情報提供についての研究

評価点	平均点(終了課題)
39.6	36.5※

※50点満点

○評価点数の分布(終了課題)

点数	～35.0	35.1～36.0	36.1～37.0	37.1～38.0	38.1～39.0	39.1～40.0	40.1～49.0
課題数	3	0	2	0	0	1	2

評価委員会のコメント

別紙参照

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 事後コメント票

受付番号	研究代表者名	研究代表者の所属機関	職名
3-08	池田 修一	信州大学学術研究院 医学系	教授
研究課題名	子宮頸がんワクチン接種後の神経障害に関する治療法の確立と情報提供についての研究		

◇国民への分かりやすい説明・普及の努力

- 一般医家に対する診療ガイドラインの作成は評価される。

◇評価者のコメント

- 困難な研究にもかかわらず、客観的なデータ収集と各種治療法が試みられ、行政施策にとって貴重な成果を上げている。
- 子宮頸がんワクチン副反応について、一連の検討を行い、その病態を明らかにするうえで有用な成績が得られたと考えます。
- 高次脳機能障害の治療法は極めて重要であり、期待したい。また、病態解析用のマウスの開発は素晴らしい。
- HPV ワクチン後の副反応と思われる症例の鑑別診断をしっかりと構築して行ってほしい。
- 子宮頸がんワクチン接種後に副反応を訴える患者に対して、診断、治療法の確立と、診断体制の整備を行った。